



## 友達と体を動かして遊ぶこと

副園長 澤田 亮

幼稚園の園庭からは、今日も子どもたちの元気な声が聞こえてきます。“運動の秋”と言われるのですが、ここ数年の夏は猛暑日が続き、暑すぎて外遊びができないことが多かったですね。だんだん秋らしく涼しくなってきたことで、戸外で体を動かす気持ちよさを味わえるようになりました。

さて、全国国公立幼稚園・こども園長会が発行している「幼児教育じほう」8月号に、運動遊びが特集されていました。その中で、運動遊びが幼児の体力向上を促すとともに、「仲間と共に活発な運動遊びを行なっている幼児ほど、自分に自信があり、決めたことは最後までやり抜くことができ、なんでも意欲的に取り組み、忍耐強く、社会性も高く、立ち直る回復力も強いと言える」とありました。さらには「大切なことは、体力向上に特化しすぎてトレーニング的な取り組みにならないことである」と書かれていました。つまり、幼児にとって運動遊びで大切なことは、トレーニングではなく、仲間(友達)と一緒に遊ぶを楽しむことです。

年少もも組の子どもたちは三輪車に乗ったり固定遊具で遊んだりしています。友達のしていることに興味津々で、友達がしていることを「ぼくもやりたい」「わたしもできるよ」とやってみます。集団で過ごすことで、友達や先生からたくさん刺激を受けています。

年中ばら組では1学期から「ねこさんなにがすき」など鬼ごっこを楽しんでいます。友達と目を合わせて「せーの」「ねこさんねこさん何が好き」と言い、ねこ(鬼役)の陣地に近づきます。「おいしいおいしいねずみ!」と言われると、「キャー!」と言いながら逃げていきます。最初は先生がねこになっていましたが、遊び慣れてくると友達同士役割を交代しながら遊びを進められるようになりました。

年長ゆり組ではサッカーを楽しんでいます。目の前に来たボールを蹴るので、ボールがコートの外に何度も飛び出します。ある日、コートの外に転がった時にどこから再開するか、言い合いになりました。コートの外から投げ入れるか、あるいは蹴って入れるか、いろいろ意見が出る中、最終的にコートの真ん中まで持ってきてそこからスタートになりました。競技としてのサッカーの正式なルールとは異なります。しかし子どもたちの中で、その方法が、みんなが納得できるもので公平だと感じたならそれが遊びのルールになるのだと思います。別の日に違うメンバーが入った時もそのルールで遊んでおり、友達同士で伝え合いながら遊びを進めていました。

10月8日には運動会があります。友達と体を動かす楽しさや気持ちよさ、喜びや悔しさ、力を合わせて成し遂げる達成感など、様々な経験を重ねることで、一人一人の成長につなげていきたいと思っています。

僕も私も  
やってみたい!



追いかけるよー!



逃げろー!

みんな集まって  
相談しよう

